

# 令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立泰明小学校

## 学校の教育目標

○よく考える子ども      ○思いやりのある子ども      ○たくましい子ども

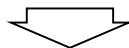
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

児童が、「何のために学ぶのか」を認識し、「何を学ぶのか」が明確に理解でき、「どのように学ぶのか」を考えることができる授業の具現化に努める。そのために、『主体的、創造的な深い学びの実現を図るために、経常的な教材研究、教材開発の推進』をキーワードとし創造性に富んだ授業づくりに励むことを、泰明小学校としての教育実践目標とする。

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因		
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は、全6領域目標値を上回り、全国の平均正答率も上回っている。しかし、項目によっては、区の平均をやや下回るものもあった。叙述の深い読み取りや表現力については、個人差がある。また、文章を書く問題については、自分の考えを表現することに不得手な児童が一定数いる。また、読み取りに時間がかかり過ぎて大問の記述までたどりつかない児童も数名いた。国語の記述の平均正答率は、4年生75.4%、5年生74.1%で目標値、全国、区の平均正答率を上回っているが、6年生では64.3%と区の平均正答率をわずかに下回っている。	作者や筆者の意図に応じて、話の内容を捉える力が不十分である。また、問題意識にまで踏み込む深い読み取りまでは至らない児童がいる。通塾に割かれる時間が多く、帰宅すると動画視聴に没入する児童も多くいる。そのため、読書、新聞やニュース、さらに日本の言語文化などに触れる機会が少ないことも要因と考えられる。
算数	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は、3学年全において全4領域目標正答率を上回り、全国の平均正答率も上回っている。また、5年生では区の平均正答率も上回っている。しかし、4年生6年生においては区の平均正答率を下回る領域も見られた。問題の内容別に見ると、4年生では「長さ重さ」の領域、6年生では「割合」や「円グラフや帯グラフ・平均」の領域で課題が見られた。	4年生の「長さ重さ」の単元では、単位を換算する感覚が不十分であることが要因であると考えられる。また、「長さ重さ」「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」の全ての単元において、答えを求める計算はできているがその考え方を的確に記述することができていないことが要因と考えられる。
社会	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は、全ての領域で、ほぼ全て目標値を上回る、もしくは同程度の結果であった。しかし、6年生の「産業と情報との関わり」「国土の自然環境と国民生活」など、特定の領域では、区の平均正答率を約5%下回った。また、社会的な事象について、複数の資料を基に考えたり、工夫を読み取ったりすることに課題が見られた。	資料の読み取り、活用する力が不十分であることが考えられる。社会的な事象への興味・関心の低さが起因している。活躍した人々の姿を知ることや、働く人々の努力や苦労を想像する機会や経験の少なさも要因と考えられる。

理科	<p>令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は、4年生5年生では、全2領域で目標値を上回っている。また、5年生においては、全国、区の平均正答率も上回っている。しかし、4年生では、「物質・エネルギー」の領域で区の平均正答率を下回り、6年生では2領域ともに区の平均正答率を下回っている。また、実験結果からどのような問題を見いだしたのかを推測したり、仮説を立て問題を解決する実験の方法を構想したりする設問において、著しく正答率が低くなっていた。</p>	<p>4年生6年生ともに、説明を求められる問題について無解答の児童もおり、自分の考えを表現することが不得手である児童が一定数いると考えられる。また、知識や技能はあるものの、そこから類推したり予想したりすることが不得手であると考えられる。</p>	
英語	<p>令和5年度「学習力サポートテスト」の結果では、「聞くこと」と「読むこと」で目標値を上回っていた。しかし、全3領域で区の平均正答率を下回っている。特に、「書くこと」については、区の平均正答率、全国の平均正答率を約10%下回る結果となった。基本的な表現を推測しながら聞く・読む、そして語順を意識しながら書くことについては個人差が見られる。</p>	<p>知識・技能の定着に大きな個人差がある。苦手意識をもっている児童については、間違えることに抵抗があり、活動に消極的になる傾向がある。また、読む・書くについては、まだ苦手意識や不慣れさがあると考えられる。</p>	
体育	<p>体力テストの結果は、全学年男女ともに合計得点は全国平均及び東京都平均を上回っていた。種目別では、「ソフトボール投げ」がやや低い傾向があった。また高学年男子の「20mシャトルラン」も低い傾向があり、持久力に課題が見られた。</p>	<p>体力テストは概ね好成績とあって良いが、中高学年からの通塾開始に伴う、運動量の減退や、好むスポーツばかりを志向する傾向は運動経験の幅を狭くしていると考えられる。</p>	
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標	
①各教科		国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章読解の力を確実に付け、読む力に関わる得点率を引き上げる。</li> <li>感謝を伝える手紙や説明文の筆者に対する自分の意見において、自分の思いや生活経験を踏まえた文章をかけるようにする。</li> <li>既習の漢字や言語の表現についても「ミライシード」「キュビナ」などを活用し、90%以上の正答率を目指す。</li> <li>言語文化に関する事項は、全国、区の平均正答率を上回ることを目指す。</li> </ul>
		算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習力サポートテストにおける目標値</li> <li>①「理由や説明を自分の言葉で表現する問題」の各学年の正答率70%以上を目指す。</li> <li>②「図形の領域」の各学年の平均正答率80%以上を目指す。</li> <li>③全4領域の平均正答率が目標値及び全国・区を昨年同様に上回るようにする。</li> <li>定規、コンパス、分度器の正しい使い方の徹底と作図への活用ができるようにする。</li> </ul>
		社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象への興味・関心を向上させる。</li> <li>学習力サポートテストでは、全学年、全領域で目標値、区、全国平均を上回れるようにする。</li> </ul>
		理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の授業では、知り得た実験結果から何が分かったのか、掘り下げる学習を展開し、論理的かつ科学的に考察を児童一人一人がまとめていけるようにする。</li> <li>学習力サポートテストの説明を求められる問題では、各学年の平均正答率60%以上を目指す。</li> </ul>

	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語が苦手な児童も歌やゲームを通して授業が楽しいと思える授業展開を目指す。</li> <li>・学習力サポートテストの語順を意識しながら書く問題は、得点率を5%上げることを目指す。</li> </ul>
	体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの「ソフトボール投げ」が全学年、全国平均を上回るようにする。</li> <li>・中・高学年の「20mシャトルラン」、「50m走」が全国平均を上回るようにする。</li> </ul>
②授業改善		校内研究では「一人一人が自分の考えをもち、生き生きと表現する児童の育成」をテーマにし、年間を通じて伝え合う活動を取り入れる等、授業内容を工夫し、児童が「学ぶ喜び」を感じられる指導技術を磨く。
③家庭との連携		家庭学習は、基礎的・基本的な内容の定着を図ることを目的とし、宿題提出率は全児童100%を目指す。また、年間を通じて地域と連携して活動について協力・参画を促す。
④体力向上		体力テストの分析結果より課題の見えた項目については、都の平均以上を目指す。マイスクールスポーツとしての持久走の取り組みや「泰明タイム」、「泰明マラソン」等の体育的行事をより充実させる。



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ活動の機会を増やす。また、話すことや聞くことについては掲示物などを活用しながら児童が意識できる環境を整える。</li> <li>・国語の教科書の「言葉のたから箱」を活用し、語彙力を伸ばすとともに実体験をもとにした文章を書く経験を増やす。「文章を書きたい」という意欲をもたせるようにする。</li> <li>・各教科のワークシートなど各場面を設定し、様々な文章を書く機会を設定する。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定規、コンパス、分度器を使う理由やその特性を改めて確認し、問題に取り組ませていく。</li> <li>・公式の成立理由について、考える時間を十分とり理解させる。</li> <li>・立体の展開、組み立て、見取り方から空間認知能力を育成する。</li> <li>・既習の計算や文章問題を確実に理解させる。</li> <li>・習熟度別学習を充実させ、個にあった学習を進める。また、年1回のオータムスクールでの学びを普段の学習に生かしていけるようにする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての学年において、グラフや表、写真や地図などから読み取る活動を取り入れる。</li> <li>・低学年生活科で銀座の街の商店・店舗を探検させる。</li> <li>・中学年社会科で街歩きと地図の作成をする。</li> <li>・中学年社会科での先人の活躍、働く人々の努力や苦勞の学習を充実させる。</li> <li>・既習の知識や用語について理解を深める。「ミライシード」90%以上の正答率を目指す。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年は、用語の暗記になりがちなので、資料から自分なりの考えを導くことができるようにさせる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に実験方法を考えさせたり、試行錯誤させたりして、科学的な視点をもたせる。</li> <li>・柏学園で自然タイアップ学習し、実体験の充実を図る。</li> <li>・低学年生活科で植物・動物、昆虫などを探し観察する自然体験学習の充実を図る。</li> <li>・中学年理科でプラネタリウムなどを生かした天体についての学習をする。</li> <li>・既習の知識や法則、実験器具の正しい使い方などを確実に理解させる。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを使った音声リピートを徹底させる。</li> <li>・ALTとのコミュニケーションの機会を生かした、会話体験を充実させる。</li> <li>・ALTからのリスニングテストを実施する。</li> <li>・学習の振り返りを行い、成長や課題に気付くことができるようにしていく。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泰明タイムを充実させ、主に投力と持久力の改善、向上を目指す。</li> <li>・マイスクールスポーツを持久走にし、泰明マラソンに向けたマラソン練習、縄跳び練習による持久力の向上を目指す。</li> <li>・泰明タイムを充実させ、主に投力を高めるための運動に、年間を通して取り組めるようにする。</li> </ul>
<b>②授業改善</b>	
取組Ⅰ	管理職による授業観察を行い、児童が意欲的に学習に取り組める授業構成や指導技術であるかを判断し、よりよい授業を目指して、必要に応じて指導助言や資料提供等を行う。
取組Ⅱ	学校評価の児童、保護者による教師の授業における「理解」、「分かりやすさ」に関して、80%を上回るようにする。

<b>③家庭との連携</b>	
取組Ⅰ	銀座を中心とした地域と連携した活動について、保護者の協力を仰ぎ、数多く参加してもらうことを通して学校の経営方針や教育活動の理解を図る。より充実した活動の実現を目指す。
取組Ⅱ	学校評価等を通して、本校の教育活動への意見を吸い上げるとともに、その結果と対策をホームページや保護者会で公表する。家庭学習の徹底（90%以上）、挨拶や身だしなみなどの基本的な生活習慣（90%以上）の到達を目指す。

<b>④体力向上</b>	
取組Ⅰ	本校の特色ある教育活動の「泰明マラソン」はマラソンカードなどで取り組み方を工夫し、楽しみながら体力を向上させるようにする。
取組Ⅱ	20mシャトルランについては学年ごとに目標平均値を設定し、到達を目指す。体力テストの結果を基に、児童の運動能力と課題の実態を具体的に把握するとともに、効果的な指導方法や技術の習得の仕方を学ぶ体育実技研修を適宜設ける。



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"><li>・各教科のワークシートなどを書く機会を多く取り入れた。その際に、書くための視点を具体的に示すことで、多くの児童が抵抗なく文章を書くことができた。</li><li>・校内研究を通して、「話す・聞く」では、目的意識や相手意識をもたせることで主体的に課題に取り組む姿が見られた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・文を書く際は、表現の仕方については個人差がある。表現力豊かな児童の文章を紹介することで、そのよさを広げていく。また、キーワードを取り上げ、語彙力の向上を目指したい。</li><li>・文を書く際にただ文を書くだけでなく、言葉のきまりやより良い表現を取り入れることができるように引き続き指導していく。</li></ul>
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"><li>・少人数で習熟度別指導を行っているため、個に応じた学習を進めることができた。</li><li>・低学年では、図を用いながら文章問題を解かせることで、文章の意味を理解しながら問題を解決することができた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・多くの児童が既習の計算は理解しているが、ケアレスミスが多かったり、応用力に課題が見られたりする。丁寧に問題に取り組むことや、立式の成立理由などについて根本から理解させていく必要がある。</li><li>・学年が上がるにつれ、定規や分度器、コンパスなどの扱いが雑になりがちなので、それらを使う理由や特性等を丁寧に指導していく。</li></ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"><li>・低・中学年では、地域の良さを生かした校外学習を行うことができた。また、見学やゲストティーチャーによる授業をきっかけに興味関心を高くもち、その後の学習の意欲の向上や理解の深まりにつながった。</li><li>・中学年においては3年生で七輪の体験を基に昔の暮らしの様子を考えることができた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・中学年において、七輪などを使った授業を引き続き行っていく。</li><li>・高学年は用語の暗記になりがちなので、資料から自分なりの考えを導くことができるような課題を設定していくことや、導入や問題で児童の興味をひくようなものを提示していく。</li></ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"><li>・理科支援員との連携を図り、充実した実験を行うことができた。</li><li>・柏学園での自然体験や、センター教室でのプラネタリウム</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・実体験や既習事項を用いながら根拠をもって予想をたてたり、論理的に考察しまとめたりすることが苦手である。知り得た実験結果から何が分かった</li></ul>

		視聴などの経験により、実体験を伴った学習をすることができ理解も深まった。	のか、掘り下げる学習を展開し、児童一人一人が論理的かつ科学的に考察をまとめていけるようにする。 ・児童が実験方法を考えたり試行錯誤したものを実際に行って検証したりするには時間の確保が必要であり、年間の学習計画の見直しが必要である。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材による歌やチャンツなどの音声リピートや ALT や友達とのコミュニケーションにより、児童は英語や英語表現に親しむことができた。</li> <li>・歌やゲームなどを繰り返し、聞き慣れない言語学習にも積極的に取り組む児童が多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語に対して苦手意識をもっていたり、恥ずかしさから消極的になっていたりする児童もいたので、個別対応をしながら英語の楽しさを体感できるようにしていく。</li> <li>・単語や英語表現を正しく覚えることが難しく曖昧な表現になってしまう児童も見られた。歌やチャンツ、ゲームでの繰り返しの練習を引き続き取り入れていく。</li> </ul>
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体の取り組みとして、年間を通して持久走に取り組むことができた。また、カードを用いて自分の記録が視覚化されていたので児童の意欲工場にもつながった。</li> <li>・保健の学習では、ワークシートやパワーポイント等を活用したり、実体験に伴った話し合いをしたりしたことにより、自身の健康について理解することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泰明タイムは、児童にとっては楽しく意欲的に活動できる時間ではあるが、日常の運動や遊びに結びついておらず、体力の向上に有効であるのかが不明確であるので検証が必要である。</li> <li>・体育の単元計画を見直し、系統立てた学習を6年間で行っていくことで、体力向上を目指していく。</li> </ul>
② 授業改善		児童が意欲的に取り組むことができるように、導入などの場面で出前授業や校外学習を効果的に設定することができた。また、OJT 研修の一つとして期間を設けてお互いに授業を見合うことで、意識の高まりにつながった。	どの学習においても児童が主体的に「調べてみたい」「やってみよう」と思えるような課題提示の方法や、導入・教材の工夫をし、授業を構築していくことやそれを共有し合い、より良いものにしていくことが課題である。
③ 家庭との連携		保護者が来校し、児童の様子を観察する機会は学校公開や PTA 行事等で少しずつ増えてきている。タブレットの Google	学校評価の保護者アンケートでは、学習習慣の定着で71.4%、基本的な生活習慣の定着で66.9% (共に「とてもそう

	<p>classroom 等で各学年・クラスの様子を伝えることができた。また、行事にはたくさんの保護者や地域の方にお手伝いいただき、児童の姿を見ていただくことができた。</p>	<p>思う」「そう思う」の合計) で目標の90%には到達しなかった。年度初めに、家庭学習の意義や基本的な生活習慣について、児童と保護者に再度確認し、本校のルールを軸にして、全教職員で同じ指導を続けていく。学年便りや保護者会などでも、児童の実態や現状を折に触れて伝えていく必要がある。</p>
<p>④ 体力向上</p>	<p>・体力テストの結果を見ると、男子女子共に、20mシャトルランで区の平均を上回る結果となった。マイスクールスポーツを持久走にし、泰明マラソンに向けたマラソン練習、縄跳び練習による持久力の向上に取り組んだ成果であるといえる。</p>	<p>・体力テストの50m走とソフトボール投げの結果では、複数の学年が区の平均を下回っていた。泰明タイムの内容や取り組み方法を見直し、より充実させ、日常の運動や遊びに結びつけていくようにする。</p>